

外国語科学習指導案

指導者 伊藤 美絵

- 1 日 時 令和 6 年 11 月 16 日 (金) 第 1 校時 (9 : 00 ~ 9 : 50)
- 2 学年・組 中学校第 3 学年 2 組 計 39 名 (男子 14 名, 女子 25 名)
- 3 場 所 中学校 3 年 2 組教室
- 4 単 元 名 Unit 6 Beyond Borders
- 5 単元について

本単元は、アフガニスタンに送るランドセルの話を通して、世界とのつながりの大切さについて考える単元である。世界では学校に通えず、読み書きすらできない子どもたちが今でも多く存在し、これらの子どもたちを国を超えて支援しようとする取り組みについて伝えている。また、日本は多方面にわたり海外の国々と相互依存している。他国との関係を健全に保ち、また自分には何ができるかということを考えることをねらいとしている。そのねらいを達成するために、教科書の内容理解に加えて、異文化理解、他者理解を深めるために、ヨシタケシンスケ氏の「なんだろう なんだろう」という絵本を用い、3つのこと「学校」「友だち」「しあわせ」という概念を自分の言葉で表現し、それをクラスメート、姉妹校である EMS の生徒、また特別支援学級の生徒と交流するという学習を設定している。他者との概念の交流を通して、「ちがいがいること」に気づくことがねらいである。EMS の生徒と交流するために、自分の意図が正しく伝わるように英語で表現するという活動を通して、既習事項を活用し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を書く技能を高めることができる。

本学級の生徒は、関心のある事柄や日常的な話題、また社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを基に、相手に正しく伝わるように自分の考えを書くことに課題のある生徒がいる。これは、既習の単語や文法を適切に応用できていないことが原因だと考える。また、社会的な話題について読んだことについて、自分の考えや意見を書こうとする生徒は多い。一方で、自分の考えや意見を全く書けない、あるいは的外れなことを書く生徒もいる。これは情報を正しく理解することが不十分であったり、自分の考えを明確に伝える表現力が足りなかったりすることが原因だと考える。様々な話題について、自ら学ぶ意欲をもち、仲間と意見を交流しようとする生徒が多い。一方で、異なる立場や考えを持つ相手とはコミュニケーションが円滑に進まないことがある。これは、他者の意見や視点に対してオープンな姿勢が十分に育っていないことが原因だと考える。

指導にあたっては、まず既習事項を活用し、相手に正しく伝わるような英文を書くことができるようになるために、思考で生まれた日本語を、幼い子どもに説明するようにより簡単に言い換える練習を取り入れる。平易な日本語にすることで使用する表現や文構造がこれまで学習してきたことで伝えることができることと実感できることを目指す。次に、他者との概念の交流を通して、「ちがいがいること」を理解し、これから出会うさまざまな人と関わるうえで、どのような視点をもっておくことが大切かということから異文化理解、異文化理解の意識を深めたい。そして同じ人間であっても違う個性であることを理解することへとつなぎ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする力を養いたい。

6 単元の目標

- (1) 仮定法の意味や働きを理解できる。
- (2) 英文を読んだり、他者と交流したりすることを通して、より良く、世界や他者につながるために必要なことは何かを考え書くことができる。
- (3) 英文を読んだり、他者と交流したりすることを通して、より良く、世界や他者につながるため

に必要なことは何かを考え書こうとすることができる。

7 指導計画（全 12 時間）

次	時	学習内容
1	1	Unit 6 文法① 仮定法の意味や働きを理解する。
	2	単元ゴールについて考える。
	3	Unit 6 文法② 仮定法の意味や働きを理解する。
	4	「学校」とは何かについて考え、英語で説明する文を書く。
	5	「ともだち」とは何かについて考え、英語で説明する文を書く。
	6	「しあわせ」とは何かについて考え、英語で説明する文を書く。
	7	Unit 6 文法② 仮定法の意味や働きを理解する。
	8	EMS 生徒の考える「学校」「ともだち」「しあわせ」を読み、各テーマの「ちがい」を通して、より良く世界や他者とつながるために必要なことは何かを考え書く。 (本時 8/12)
2	9	Unit 6 本文内容理解①
	10	Unit 6 本文内容理解②
	11	Unit 6 本文内容理解③
	12	Unit 6 まとめ

8 本時の目標

より良く、世界や他者とつながるために必要なことは何かを考え書くことができる。

【思考・判断・表現】

9 「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

基準	具体的な児童・生徒の姿
Ⅲ	異文化理解、他者理解の必要性を認識したうえで、より良く世界や他者とつながるために必要なことは何かを理解し、自分の考えを記述することができる。
Ⅱ	より良く世界や他者とつながるために必要なことは何かを理解し、自分の考えを記述することができる。
Ⅰ	より良く世界や他者とつながるために必要なことは何かを理解し、自分の考えを記述することができていない。
手立て【関連する教師の資質能力】	
○ 「学校」「友だち」「しあわせ」という概念を自分の言葉で表現し、それをクラスメート、姉妹校である EMS の生徒、また特別支援学級の生徒と交流し、「ちがい」をみつけることを通して、異文化理解、他者理解を深めることができるようにする。【授業構想力】	
○ それぞれの考えをグループ分けし、グループにタイトルをつけることで「ちがい」を理解できるようにする。【授業実践力】	

- ポートフォリオシートに自分の考えを英語で記述していくことを通して、コミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。【授業実践力】

10 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
導入 1. 前時までに「学校」「友だち」「しあわせ」について書いたことを全体で共有する。	○ 前時までにグループで交流したことを学級全体で共有し、本時の活動のねらいを理解できるようにする。
より良く、世界や他者とつながるために必要なことは何かを考えることができる。	
展開 2. EMS の生徒が書いた「学校」「友だち」「しあわせ」についての考えを知る。 ・班ごとに英文の書かれたワークシートを配付し、英文を読み合う。 ・EMS の生徒の考えをグループ分けし、グループ毎のタイトルを考える。 3. 「ちがい」について考える。 ・各班で書きだした EMS の生徒の考えの「ちがい」を交流する。 ・自分たちの「ちがい」と EMS の生徒たちの「ちがい」のちがいを見つける。 まとめ 4. より良く、世界や他者とつながるために必要なことは何かを考え英語で書く。	○ 中学校で学習しない単語については意味を理解しやすくするために資料を配付する。 ○ 個人の考えをグループ分けし、そのグループのタイトルを考えさせることで、「ちがい」を見つけ出しやすくする。 ◆より良く、世界や他者とつながるために必要なことは何かを考え書くことができる。 【思考・判断・表現】